浅川一雄さん

地下鉄サリン事件で妹・浅川幸子さんが負傷。

幸子さんは，丸ノ内線で被害に遭った。脳に障害を負い，寝たきりの状態。現在も，浅川一雄さんらによる献身的な介護を受ける。

浅川一雄さん

浅川一雄さん手記

今年一年を振り返ると，妹・幸子が入院をし一年以上が過ぎました。幸子の容態に大きな変化はありません。しかし，入院当初から口から食べ物が食べられずかなり痩せてしまいましたが顔色はとても良くなってきたと思います。病院では，固まってしまった関節を柔らかくする運動，車いすに座る為のリハビリを行っています。幸子は一生懸命に生きる努力を続けているのです。私たちはお見舞いに行き見守るだけです。面会をしていると幸子は何かを訴えようと口を動かすのですが声になりません。おそらく「家に帰りたい」と言っていると思います。が，私はそのことには触れません。幸子が辛くなると思うからです。母も「幸子の容態はどう？」と常に気にしていますが今年94歳になる母は，ほぼ寝たきりなので面会は難しいです。

幸子の気持ちを考えると辛いと思うことがあります。この手記を読んでくださっている皆様，少しだけ想像していただけますか？20年以上寝たきりで自分の意思が相手に伝わらず，食べたいものも食べられず，自分の自由がきかない辛さ，想像以上の過酷な状態なのです。その姿を見ている私たちは，悲しい思いではあるがあえて妹には，ネガティブな言葉を使わないようにしています。なぜなら一緒に辛くなってしまったら幸子本人ももっとやりきれなくなってしまうと思うからです。私たち家族は幸子にとって良いと思うこと，楽しいと感じることをしてあげることが一番大切だと思ってい

ます。

今年，地下鉄サリン事件の死刑囚の刑が執行されました。そのことによって私たち家族には何の変化もありません。刑が執行されたことで幸子が元に戻るわけでもなく，失われた23年が戻ってくることもありません。国は，平成の終わりを迎えるに当たって刑を執行することにより，地下鉄サリン事件を忘れようとしているのでしょうか？私たちは忘れさられてしまうのか。国は，犯罪被害者全ての人々の生活や心情にもう一度向き合ってほしいと思います。私も来年60歳になり定年を迎えます。体の衰えも感じ特に経済面が心配になっています。幸子の入院費用が年々負担になってきているからです。

私は，地下鉄サリン事件の真相は分からないままだと思っています。にもかかわらず，依然として「Aleph」や「ひかりの輪」に入会する信者がいる現実に脅威を感じます。第二第三のオウム事件が再び起こされては絶対になりません。国と行政に望むことは，地下鉄サリン事件の再発をさせない体制を確立してほしいと願うばかりです。

浅川幸子さん

（地下鉄サリン事件以前に撮影）

（浅川一雄さん提供）

（平成30年12月28日記）

「現在の浅川幸子さんのご様子について（写真）」へ
手記「『事件から23年』に際して」（平成29年）へ